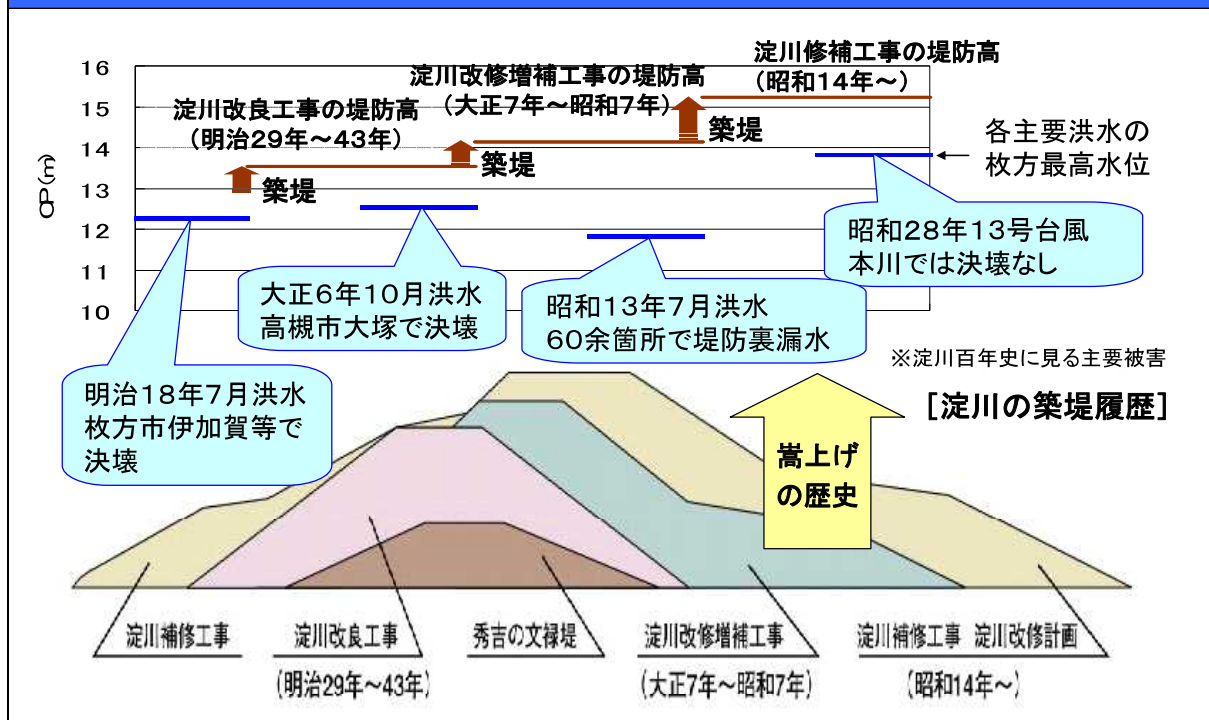


質問 5-1 耐越水堤防強化の実施に向けて、きちんと前向きに取り組むべきではないでしょうか。

(回答)

- 堤防は長い歴史の中で嵩上げ、拡幅を繰り返されてきたものであり、構成材料が不均質であることや、堤防天端高の不揃い、樋門等弱点箇所の課題があり、こうした条件が一様でない連続する一連区間の堤防において、越水に耐える一定の機能を確保するための技術的解明ができていません。

堤防は歴史的に築かれ、長年の被災経験の下で拡幅・嵩上げされてきた構造物



- 技術的解明ができておらず、効果が不明なものに対して人々の生命、財産を託すことはできず、多額の費用もかけられません。より壊れにくい堤防を目指すことはあっても、一連の区間を越水しても壊れないことを前提とした治水計画は世界的にも例はありません。
- このような耐越水の堤防強化を行うよりは、川の中の洪水を安全に流す対策や計画高水位以下の流水に対して安全になるような堤防の強化など確実な対策を優先すべきです。

- 高い堤防や天井川などでは、氾濫時の被害をできるだけ少なくするよう洪水時の水位を下げるのが最優先であり、耐越水堤防に頼って治水計画を立てることは極めて危険なことです。

(参考)

アメリカやオランダといった我が国と同レベルの社会水準を有する主要な国において、越水しても破堤しないことを前提として治水計画を立てている国はありません。

(関連資料)

- 平成20年5月13日 第78回淀川水系流域委員会 審議資料 1-1-2
<http://www.yodriver.org/kaigi/iin/index20.html#78th>
- 平成20年5月27日 第79回淀川水系流域委員会 補足説明資料
<http://www.yodriver.org/kaigi/iin/index20.html#79th>
- 平成20年6月3日 第80回淀川水系流域委員会 補足説明資料
<http://www.yodriver.org/kaigi/iin/index20.html#80th>
- (社)土木学会による「耐越水堤防整備の技術的な実現性の見解」について
淀川河川事務所ホームページ
http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/news/news_detail.php?id=397

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。